

お聞かせください

避難生活の中で感じていること、困っていること。除染や賠償、村の事業などについて聞いてみたいこと。ジャンルは問いません。皆さんの声をお聞かせください。



佐藤 美喜子さん(関根・松塚)

皆に助けられて仮設住宅の管理人を務めてきました。多くのものを失った6年間ですが、「人との出会い」を得ることができました。住民の皆さんは家族のように思えます。国内外からいただいた支援にも力をもらいました。どこかで人の役に立ち、返しきれない大きな恩を少しずつでも返していきたいと思います。

大震災から丸6年が経とうとしています。そして3月31日には、帰還困難区域を除く地域で、村の避難指示が解除されます。

そのような中、仮設住宅や借り上げ住宅を退去して、村内外に暮らしの拠点を移す人が増えています。佐藤さんが、退去する人を見送る時、「どうか元気で」と祈るような気持ちになると話されていたように、寄り添い合い、励まし合ってきた皆さんが離ればなれになる影響は、注意深く見守っていく必要があります。避難指示解除を機に帰村する人、避難先で新しい暮らしに進む人が、それぞれの場所で確かな一歩を踏み出せるよう、声を掛け合い、共にがんばっていきましょう。

今も寄せられるあたたかな支援については、佐藤さんのお話の通り、村も村民も、一つひとつに込められた思いを忘れることなく、応えたり伝えたりしていかなければなりません。大きな区切りとなるこの春は、私たちにとって、改めて感謝の思いをかみしめる機会となります。

長谷川 光男さん(前田)



家内と2人で、村に戻って暮らします。山仕事をしているのですが、村内ではできないので、会津や県外に出向いて仕事をしなければならず、大変です。皆がバラバラになっていて、相談することも難しく、今後5年くらいで情勢がどう変わっていくか、まだ見通せないなと感じています。

長谷川さんのお話の通り、復興はまだまだ道半ばであり、今後5年という時期は、復興を推し進める上で大変重要な期間になると考えられます。村は、避難指示解除を、復興に向かう新たなスタート地点と位置づけて、暮らしやなりわいの再生に取り組む村民の皆さんと共に、新しい村づくりに邁進していきます。また、里山や森林の再生も、今後の大きな課題であり、一歩ずつ取り組んで行かなければなりません。

困りごとがある際には、相談窓口の一つとして、ぜひ村役場にもご連絡をいただければと思います。対応している村の部署や、団体・機関をご紹介できますし、村にとっても、皆さんのご意見や具体的な事例が、事業を検討していく上で、大変重要です。

いいたて 歳時記

その 23

サルツパカマと手ぬぐい

田畑で仕事をする時は、男も女も、仕事着を着ました。仕事着は、「野良着」とも呼ばれ、作業に合わせて、季節に合わせて、身につけました。そんな仕事着の一つに、サルツパカマがあります。

サルツパカマは、モンペ型のボトムスですが、モンペとはちよつと違います。マチを入れることで腰回りの部分をふくらませ、ひざ下はやや細身にできています。着やすく、どこか抜けている感じのかわいい形。最近では、おしゃれな部屋着のデザインにも取り入れられています(本当です。気になる方は、「サルツパカマ」で検索してみてください)。マチを付けるのは、動きやすさを出すためですが、布地を無駄なく使えるという利点もあるそうです。

そして、もう一つ。仕事をするのに手放せなかったアイテムに、手ぬぐいがあります。ホコリをよけ、汗を拭き、寒さをしのぐという優れたもの。男のかぶり方と、女のかぶり方があるそうです。詳しくは写真をご覧ください。



参考：飯館村発行「飯館村史 第3巻 民俗」※写真は転載

誕生おめでとう

| 赤ちゃんの名前   | 親の氏名  | 行政区 |
|-----------|-------|-----|
| 庄司 小春ちゃん  | 和史・芳美 | 草野  |
| 中井田 謙也くん  | 拓也・佑実 | 大倉  |
| 鈴木 涼斗くん   | 綾人・志織 | 深谷  |
| 佐藤 彩里愛ちゃん | 文信・智美 | 宮内  |

すくすくと元気に育ってね



結婚おめでとう

| 氏名     | 出身地 |
|--------|-----|
| 大加内 優輝 | 佐須  |
| 加藤 めぐみ | 山形県 |
| 蝦名 星也  | 青森県 |
| 齋藤 爽香  | 宮内  |

いつまでもお幸せに

おくやみ

| 氏名      | 年齢 | 行政区    |
|---------|----|--------|
| 菊地 サク   | 87 | 蕨平     |
| 菅野 寅男   | 88 | 長泥     |
| 高橋 正喜   | 89 | 小宮     |
| 菅野 澄子   | 50 | 上飯樋    |
| 菅野 良明   | 75 | 草野     |
| 鈴木 藤子   | 89 | 大久保・外内 |
| 鈴木 節雄   | 83 | 小宮     |
| 大和田 セツ子 | 92 | 八木沢・芦原 |
| 塚原 キヨ   | 90 | 伊丹沢    |

ご冥福をお祈り申し上げます

(1月21日から2月20日までに届け出のあったものを掲載) ※この欄に掲載を希望しない方は、届け出のときに住民係へ申し出てください。

編集後記

2月中旬、いいたていちごランドに取材でお邪魔しました。ハウスの中には、たくさんのいちごの苗。葉っぱの鮮やかな緑色が目に飛び込んできました。実が付きだすのは5月頃。春をただじっと待つのではなく、力を貯めている、そんな気がしました▼3年続けて行われた臼井真先生のいのちの授業。自身の被災体験をもとに作られた歌は、子どもたちの声を通して心に響き渡ります。授業後に大内小学校校長が「大人は、子どもたちの命を守り、幸せを運ぶ使命がある」と涙声で感想を話しました▼一人ひとりのこころの中にある、それぞれの「復興」という種。大切に、大切に育てていきましよう。いつかきつと花咲く日を信じて。

(木幡)